



岩波ブックレットNo.978
川崎哲 著
『新版 核兵器を禁止する
——条約が世界を変える』
定価 (本体620円+税)

2017年7月に国連で採択された核兵器禁止条約は、核兵器に関わるあらゆる活動を例外抜きに禁止し、かつ核兵器を完全に廃絶する道すじを描いた画期的な条約です。これまでのNPT (核不拡散条約) やCTBT (包括的核実験禁止条約) は部分的な禁止だったのに対して、完全な禁止をしたのです。

ヒロシマ・ナガサキから72年、本当に多くの人たちが核兵器のない世界のために活動してきました。初めに被爆者が、体や心に深刻な傷を負ったにもかかわらず勇気をもって声をあげ、日本で原水爆禁止運動という大きな流れをつくりました。1980年代にはアメリカでも欧州でも大きな反核運動が起きました。その運動が発展して今があります。

核の時代の「終わりの始まり」

人びとはふたつの神話にとりつかれています。ひとつは「核兵器はなくせない」という神話です。核兵器禁止条約は以前から提唱されてきましたが、できるわけがないといわれてきました。ところがそれは実現し、「できる」ことを示しました。もうひとつ、抑止力がはたらいっているから「核兵器はじっさいに使われることはない」という神話があります。

歴史をひもとけば、朝鮮戦争、キューバ危機、ベトナム戦争、核兵器が使われそうになった危機一髪の瞬間がたくさんあります。使われずにすんだ幸運がいつまでも続くとは限りません。核兵器があるから抑止力がはたらいてきたというのは、まったく立証できない主張です。ベアトリス・フィン ICAN事務局長は、オスロのノーベル平和賞受賞式典で「人類の終わりか核兵器の終わりかの選択だ」と言いました。

アメリカは最近、小型核の増強を唱えています。大きな核は使えない、使える小型核を持っておくほうが脅しがきく——使いやすくなったほうが使われないと核抑止論者はまじめな顔をして言うのです。しかしそんな状況が続くわけがない。使わないためのものをたくさん開発したり製造したりする必

核兵器禁止条約を 実現した力で 世界を変える

ノーベル平和賞を受賞したICAN 国際運営委員 **川崎 哲** さん

要があるのか。アメリカの核政策とは、軍需産業を肥え太らせる以外の何ものでもないのです。

人間の声で語り考える

僕が所属するNGOピースボートは、被爆者に船に乗ってもらって世界各地で証言してもらう「おりづるプロジェクト」をここ10年ほどとりこんでいます。被爆者も高齢化し、当時子どもだった方や被爆二世も参加されるのですが、自分たちは直接の記憶はない、上手にしゃべれない、親も語ってくれなかったし自身も語ってこなかった——と悩まれます。しかし彼らの証言は、非常にインパクトをもって世界のひととに届けられました。人が語るというその顔つき、手つき、声。この人が原爆にあったんだと言葉以上に伝わるのです。僕たちはそういう人間の声を伝えることに意味を感じています。

核兵器禁止条約は人道法だといわれます。それは核兵器を抽象的な国際関係の話としてではなく、人間の視点でみて考えるということです。みんなが地道に活動にとりこんできた成果として、この条約は実現できたのです。核兵器をなくすのは人間の意志です。 (談)

かわさき あきら / 核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 国際運営委員。* ICANは、2007年に核戦争防止国際医師会議を母体に豪州のメルボルンを拠点に発足したNGOの国際的な連合体で、2017年7月の核兵器禁止条約成立に市民運動として貢献したとしてノーベル平和賞を受賞。現在101カ国から468団体が参加している。